

竹中 ナミ プロフィール

氏名 竹中 ナミ (社会福祉法人プロップ・ステーション 理事長)
 ニックネーム ナミねえ
 生年月日 1948年10月8日 (神戸市生まれ)
 学歴 中卒 (神戸市立本山中学校卒業)
 ホームページ <http://www.prop.or.jp> E-mail nami@prop.or.jp

活動歴

重症心身障害児の長女 (現在 31 才) を授かったことから、日々の療育のかたわら障害児医療・福祉・教育について独学し、challenged (障害を持つ人達) の自立と社会参加を目指して、活動を続けてきました。
 *手話通訳 *視覚障害者のガイド *重度身体障害者施設での介助・介護 *おもちゃライブラリーの運営 *痴呆症の方のデイケア *障害者自立支援組織メインストリーム協会事務局長 などのボランティア活動を経て、1991年5月兵庫県西宮市内にてプロップ・ステーションを設立。翌92年4月、大阪ボランティア協会内に事務局を移転。7年間任意団体として活動を続け、'98年9月、厚生大臣認可の社会福祉法人格を取得、本部を神戸市内に置き、理事長に選任されました。長女は現在、兵庫県小野市にある国立療養所青野ヶ原病院の重症棟に入院しており、病棟の皆さんの温かい看護を受けて過ごしています。私は病棟の皆さんはじめ、支援を下さる多くの方々に感謝しつつ、プロップの活動に励む毎日です。

委員、講師など

衆議院：予算委員会 公聴会 公述人 (2004年2月26日)
 参議院：国民生活・経済の調査会 参考人 (2004年3月10日)
 総務省：地上デジタル放送推進に関する検討委員 (2004年2月就任)
 国土交通省：自律的移動支援プロジェクト スーパーバイザー (2004年3月就任)
 21世紀臨調 (新しい日本をつくる国民会議)：生活者起点推進会議運営委員 (2003年9月就任)
 総務省：情報通信審議会委員 (2003年1月就任)
 財務省：財政制度審議会専門委員 (2001年1月就任)
 厚生労働省：障害者 (児) の地域生活支援の在り方に関する検討委員会委員 (2003年5月就任)
 総務省：コピキタス社会における住民サービスの高度化・多様化に関する懇談会 (2002年11月就任)
 経済産業省：サービス産業フォーラム委員 (2002年12月就任)
 厚生労働省：障害者の在宅就業に関する研究会 (2002年8月就任)
 内閣府：新しい障害者基本計画に関する懇談会委員 (2002年5月就任)
 内閣府：経済財政諮問会議 経済活性化単独会合講師 (2002年2月)
 女性議員政策提言協議会：ユニバーサル社会の形成促進プロジェクト・チーム講師 (2002年2月就任)
 e-japan 重点計画特命委員会：チャレンジドを納税者にできるIT立国日本 講師 (2002年3月)
 文部科学省：特別支援教育の在り方に関する調査研究会委員 (2001年12月就任)
 国土交通省：これから10年後の暮らしを語る懇談会委員 (2001年1月就任)
 国土交通省近畿地方整備局：近畿のみちを考える懇談会委員 (2002年4月就任)
 人事院近畿事務局：上級係員研修会講師 (2002年1月/12月、2004年)
 宮城県：政策顧問 (2004年11月就任)
 京都府：電子府庁推進評価委員 (2004年7月就任)
 大阪市：都市経営諮問会議委員 (2004年5月就任)
 兵庫県：IT単独推進会議委員 (2003年5月就任)
 大阪府：IT推進懇話会委員 (2003年4月就任)
 和歌山県：わかやまアドバイザー会議委員 (2003年4月就任)
 神戸市：こうべユニバーサルデザイン推進会議委員 (2003年4月就任)
 岐阜県：IT単独顧問 (2002年7月就任)
 神戸市：「新たなビジョン懇話会」委員 (2004年4月就任)
 三重県：障害者在宅就業支援策「e-いおらむ」アドバイザー (2002年8月就任)
 神戸市：神戸市立中央市民病院 倫理委員 (2001年4月就任)
 神戸学院大学客員教授 (2003年4月就任)

☆1995年より、チャレンジド・ジャパン・フォーラム (CJF) 国際会議 主宰

郵政省：情報通信システム推進研究会バリアフリー推進部会委員 (95/96/97/98/99/2000 年度)
通産省：情報処理機器アクセシビリティ指針講師 (1995 年度)
厚生省：障害者情報ネットワーク (ノーマネット) 講師 (1996 年度)
自治省：NPOと行政のパートナーシップの在り方に関する研究会委員 (1997/98/99/2000 年度)
運輸省：(財)交通エコロジー・モビリティ財団委員 (1998/99/2000/2001 年度)
労働省：重度障害者の在宅雇用・就労支援システムに関する研究会委員 (1998～3 年間)
建設省：次世紀の暮らしを語る懇談会委員 (1999/2000/2001 年度)
神戸市：神戸経済新生会議委員 (2000 年 7 月～2001 年 3 月)
兵庫県：生涯教育情報ネットワーク委員会委員 (1998/99/2000/2001/2002/2003 年度)

著述

飛鳥新社「ラッキーウーマン～マイナスこそプラス種」2003 年 5 月発行
筑摩書房「プロップ・ステーションの挑戦」1998 年 8 月発行 (平成 11 年テレコム社会科学賞受賞)
JapanTimes「プロップ・ステーションの挑戦」英訳版「Let's be proud!」2000 年 8 月発行
(2002 年度 大修館発行 高校 3 年生用英語教科書に採用)
集英社漫画文庫 YOU「20 世紀を彩った女たち」2001 年 1 月発行 に取り上げられる
朝日新聞 (日曜朝刊) オピニオン「時潮時論」2003 年 4 月より 5 回にわたり連載
神戸新聞コラム「随想」2003 年 4 月から 12 回連載
月刊 SOHO ドメイン (旧：SOHO コンピューティング)「ナミねえの道」2002 年 5 月号より連載中
産経新聞コラム「from」2002 年 5 月より連載中
ぎょうせい株式会社「ガバナンス」にて、2001 年 10 月より 1 年間オピニオン連載
中央公論社「居心地のよい国ニッポン」2000 年 3 月発行 (共著 川勝平太、嵐信彦 編)
日本経済出版社「志の開拓者たちよ!」2001 年 1 月 (共著 自由の森大学・筑紫哲也、福岡政行編)
(財)都市問題研究所「都市政策」2001 年 2 月発行
婦人公論 1996 年 12 月号「障害者が働くということ」
(月刊)インターネットアスキー「インターネットとチャレンジド」13 回連載
プロップの機関誌「flanker」(フランカー)にて、毎号オピニオンを発表 ほか多数

映像

写真集「チャレンジド～ナミねえとプロップな仲間たち」(撮影：牧田清さん)吉本興業より発行
今村昌平監修 ドキュメンタリー「チャレンジド」(文部省選定) 98 年 10 月ビデオ版販売開始
フジ TV「アンビリバボー」にてナミねえ特集「ラッキーウーマン」放映 2003 年 8 月 28 日
MBS ドキュメンタリー番組「映像 '03」にて「ナミねえ&プロップ特集」放映 2003 年 10 月 19 日
MBS「PORTRAITS」でナミねえ映像紹介放映 2003 年 9 月 26 日
TBS 報道特集ドキュメンタリー「障害者を納税者に」1996 年 6 月放映
TBS「ニュース 23」にて 筑紫哲也さんと対論 1999 年 11 月放映
NHK「ニュースパークかんさい」にて活動紹介 2001 年 1 月放映
ABC「NEWS ゆう」にて活動紹介 2001 年 2 月放映
NHK BS フォーラム「知事達がかたるバリアフリー社会～21 世紀・日本は地域から変わる～にて
パネリスト：北川三重県知事、増田岩手県知事、堂本千葉県知事、潮谷熊本県知事
コーディネータ：竹中ナミ 2001 年 12 月 29 日放映
NHK 教育 TV「人間ゆうゆう 2002 年わたしの提言」2002 年 1 月 8 日放映
NHK 教育 TV「みんなで考える・みんなの公共事業」2003 年 2 月 22 日放映 他多数

受賞

著書「プロップ・ステーションの挑戦」平成 11 年度テレコム社会科学賞受賞
エイボン女性年度賞 教育賞受賞 (1999 年 10 月 27 日)
神戸市市民福祉顕彰 奨励賞 (2001 年 9 月 4 日) (福)プロップ・ステーションとして受賞
日経 WOMAN「ウーマン・オブ・ザ・イヤー 2002」ネット部門受賞 (2001 年 12 月)
平成 14 年度 情報化月間記念式典 総務大臣賞 個人表彰受賞 (2002 年 10 月 1 日)
平成 16 年度 神戸新聞 社会賞受賞 (2004 年 5 月 3 日) (福)プロップ・ステーションとして受賞

チャレンジドや高齢者が、元氣と誇りを持って働ける国に

社会福祉法人プロップ・ステーション
理事長 竹中ナミ

プロップ・ステーション(略称プロップ)は、IT(情報技術)を活用してチャレンジド(challenged)の自立と社会参画、とくに就労の促進を目標に活動しています。

「チャレンジド」というのは最近の米語で、「神から挑戦という課題、あるいはチャンスを与えられた人」を意味し、障害をマイナスとのみ捉えるのではなく、障害を持つゆえに体験する様々な事象を自分自身のため、あるいは社会のためポジティブに生かして行こう、という想いを込めた呼称です。

私は、自分が重症心身障害を持つ娘を授かったことをきっかけに、この30年間多くのチャレンジドに出会い、ともに活動して来ましたが、娘が障害を持っていなければ私がこうした活動を始めることはなかったやろうな、と思うと、娘も私も「チャレンジド」といえると思います。

プロップでは、全国各地の在宅チャレンジドが、家族の介護を受けながらも、ITを活用し、「仕事人」を目指して勉強し、実力を身につけ、まだまだ少ない量ではあるものの在宅ワークに励んでいます。プロップの役割は、技術習得のセミナーを開催することと並行して、企業や行政から彼らの仕事を受注し、在宅でそれが行えるようコーディネートする重要な部分を担っています。重度のチャレンジドが「何か出来る人か」「どれくらい出来る人か」を知らない企業や行政機関が、不安感を持たずに仕事を発注するためには、きちんとしたコーディネート機関が介在し、その不安を取り除くことが必要です。また「チャレンジドゆえに安く使われる」ということのない、価格の打ち合わせなども重要な役割です。従って、プロップでは専従スタッフ以外に、様々な仕事のプロフェッショナルたちがボランティアとして参画し、チャレンジドの実力アップを支援し、また適切な評価を下さっています。産官政学民の広範な人たちが、それぞれの立場で、プロップの目指す方向にご協力を下さっており、大変ありがたいことだと思っています。

プロップのスローガンは「チャレンジドを納税者にできる日本」という「刺激的な」ものですが、私は「日本という国はいま、チャレンジドや高齢者の力を必要としている」という私なりの現実認識のもとに、あえてこういう「誤解を受けやすいスローガン」を掲げて活動を進めてきました。

長年、草の根で活動を展開してきたプロップですが、1998年9月、第2種社会福祉法人として厚生大臣認可を取得しました。既存の福祉観とは異なるスローガンを掲げ、なおかつコンピュータネットワークを活用するという、全く新しいタイプの活動が「社会福祉法人」として認可されたことに、時代の変化をしみじみ感じます。

高齢化と少子化が大変なスピードで同時進行している日本では、フルタイムで働ける人や残業もいとわれない、という人がどんどん少なくなっています。そうした社会にあっても、福祉的財源(人とお金)を維持して行ける国であるためには、「一人でも多くの人」が自分の身の丈に合った働き方で支える」という構造に日本の社会システムが変化しないと持ちません。

「働く」あるいは「働くことで誰かの役に立ちたい」という気持ちは、人間ならではの素晴らしい感覚です。日本が、「チャレンジドや高齢者が、元氣と誇りを持って働ける国」になって欲しい、と同時に私の娘のような「働く」という形で社会貢献できない人間も、尊厳を持って存在できる国であって欲しい!

そういう国にするために、自分もプロップの活動を通じて役立ちたい、と切に思う毎日です。

プロップ・ステーションホームページ <http://www.prop.or.jp>
ご連絡、ご相談アドレス prop@prop.or.jp